

終戦〜昭和末

終戦〜昭和末までの末宗組・末宗家の主な出来事

昭和21年	末宗庄市復員、北村寿津子と結婚
22年	末宗庄太郎生まれる 末宗十郎、大分県議会へ 株式会社に改組、末宗庄市社長に就任、末宗十郎顧問就任
24年	末宗順子生まれる 知事登録310号
25年	末宗為十生まれる
28年	末宗寿市生まれる
29年	末宗秀雄生まれる
32年	アスファルトプラント1号機導入
35年	末宗十郎、監製褒章、勲五等双光旭日章を受章
38年	本社事務所新築
39年	末宗十郎翁之像建立
44年	末宗庄市、宇佐市議会へ 末宗庄太郎入社
45年	末宗組工業試験室新築
47年	末宗十郎死去
48年	末宗十郎入社 アスファルトプラント2号機導入 知事許可登録2685号
52年	末宗秀雄入社
53年	末宗庄市、建設大臣表彰
54年	末宗庄太郎専務就任
55年	鉄骨倉庫新築
56年	末宗為十常務就任
63年	末宗秀雄、宇佐市議会へ 末宗庄市死去 末宗庄太郎社長就任、末宗為十専務就任、末宗秀雄常務就任

株式会社末宗組の誕生

〜輝きを放った昭和22年〜

昭和22年は末宗家にとって思い出深い年となった。退院後、庄市は北村寿津子と結婚、昭和22年3月に長男・庄太郎が誕生。翌4月に十郎が県議会議員に1万152票という、県内でもトップの得票数で当選。これを機に、株式会社に改組（資本金19万8000円）、十郎は顧問となり、庄市が社長に、庄市の弟、八郎と陸男が取締役に就任した。



昭和21年、庄市は北村寿津子と結婚。

主な工事（年月は着工時期）

昭和 42 年（物価値上げ相次ぐ / 県下大干害 / 宇佐市制施行）

- 2月 国鉄宇佐町宇田宿舍新築その他
- 5月 長洲高校改築
- 8月 別府院内線改良
- 10月 中津高田線舗装新設
県営白野地区開拓パイロット

昭和 43 年（県下で異常気象続く / 大学紛争広がる）

- 3月 院内町道舗装
- 7月 国道 213 号改良
浮殿橋架け替え
- 10月 松本川流路工
- 11月 横山地区圃場整備

昭和 44 年（アボロ 11 号片面着陸 / 大分製鉄所着工）

- 3月 院内町道広瀬橋舗装新設
- 6月 アイコー工場敷地造成
- 7月 院内中学校新築工事
- 8月 和間地区圃場整備
- 9月 日出養護学校糸口分校新築
- 10月 寄瀬橋水路トンネル工事
- 11月 駅館川長峰圃場整備

昭和 45 年（大阪で日本万国博覧会開催 / 三島由紀夫事件）

- 2月 日豊線宇佐駅本屋取り替え
- 7月 大分交通安心院営業所増設
- 10月 県営渚住宅団地・宇佐教職員アパート新築

昭和 46 年（新大分空港開港 / 立木勝知事の登場 / 円切り上げ）

- 1月 宇佐日足地区農地造成
- 2月 宇佐土木事務所関係特殊改良工事（以降、各年）
- 7月 市営渚住宅団地新築
- 10月 西馬城小学校校舎新築

昭和 47 年（日豊線電化完成 / 新日本製鐵第 1 号高炉火入れ / 札幌冬季オリンピック / 浅間山荘事件 / 沖縄返還）

- 5月 三栄商会（宇佐神宮）給油所新築
- 7月 県営和間地区第 5 工区
- 8月 県営西大堀地区第 2 工区
- 10月 県営宇佐教職員住宅新築
- 11月 須崎砂防ダム

さらに、末宗組創業の地の象徴だった猫間橋を撤去した寄瀬川の改修工事がこの年の 9 月に行われた。当初、別の県内大手業者が行っていたが、その困難さのために断念し、末宗組が後を引き継いだもの。つまり株式会社末宗組としての最初の仕事か猫間橋の撤去だったというわけだ。まるで末宗組の新たなスタートを見届けるように、猫間橋は姿を消した。「壊すなら、自分たちの手で」という思いがあったに違いない。猫間橋の石の一部は末宗家によって買い取られ、いまでも末宗邸の塀の一部として残されている。



末宗組創業の地の象徴だった猫間橋の石は、末宗邸の塀の一部となって、今も歴史を刻み続けている。

アスファルト舗装の先駆者

↳ 宇佐市内の舗装の大部分はつちがく

法人化とともに「土木・建築・製材・木工・設計・施工監督請負業および付帯事業」を営業科目と掲げた末宗組はその後、戦後の復興期から高度経済成長の波に乗って、右肩上がりで業績を伸ばしていく。

この頃の工種別完工高の推移によると、昭和34年頃までは土木工事が多く、36年から43年頃にかけて建築工事が一気に伸びている。道路や橋梁の改良、河川や水路、海岸の堤防、護岸といった、いわゆる復興のための工事から、学制改革や町村合併による校舎、庁舎の新築、あるいは住宅需要に伴う民間の新築へと、時代の変化が見て取れる。

そして30年以降、新たに末宗組の武器となったのが舗装工事である。

自動車の普及とともに道路の重要性は増し、インフラ整備が進む。昭和20年代の後半



末宗組の先見性を示したアスファルトプラント。

から、それまでのコンクリート舗装に替わってアスファルト舗装が注目され始めていた。末宗組の動きは早かった。28年暮れ、外資系の企業で技術を身につけたというアスファルト技師・中村武夫を北九州市から呼び寄せ、30年8月に初めてアスファルト舗装工事（豊後高田市市内）を行った。大分県当局もアスファルト舗装への転換を考えていたが、できる業者がほとんどいなかったという時期である。

その後32年にはアスファルトプラント1号機を導入、翌33年、別府志高湖畔で行われた、昭和天皇皇后両陛下を迎えての全国植樹祭に際して、県道久留米別府線（植樹祭道路）のアスファルト舗装工事を行った。以降、「舗装」が営業科目に加わり、56年くらいまで年間完工高に占める割合がもっとも大きい主力科目となった。その間、45年に末宗組工業試験室を新築、48年にはアスファルトプラント2号機を導入するなど、需要を見越した設備投資も行っている。舗装は末宗組の得意分野となった。「昔は宇佐市内の舗装の大部分がうちの仕事だった」という庄太郎社長の述懐は、末宗組が残した企業努力の足跡なのだ。

主な工事（年月は着工時期）

昭和48年（オイルショック/円、変動相場制導入）

- 1月 宇佐日足地区農道
- 7月 県営宇佐警察職員住宅建設
- 8月 駅館川西木地区園地整備
- 9月 奇瀧川災害関連
- 12月 安心院町道舗装

昭和49年（円ゼロ成長、県下でも不況深刻化）

- 2月 県住宅供給公社宇佐団地建設
- 4月 日豊線中山香駅構内路盤整備
- 6月 宇佐市四日市中央線舗装
- 9月 県営小峰住宅団地の新築

昭和50年（不況長期化、地方財政窮乏 / 大分県中部地震 / 第1回サミット開催）

- 10月 宇佐市法鏡寺閣線舗装
- 12月 国鉄江須賀・平原宿舍新築
宇佐海岸高潮対策工事

昭和51年（コックード事件 / 台風17号襲来）

- 1月 駅館川開拓上 / 原幹線舗装
- 2月 院内町野地地区ほか舗装
- 4月 関東精機敷地造成
- 8月 矢部地区園地整備
- 9月 院内町落符倉線舗装
安心院町新員谷線・南畑地区農道舗装

昭和52年（戦後最大不況到来 / コメ大幅減反）

- 12月 宇佐高校同窓会館新築
- 12月 宇佐市農村総合モデル時事業舗装
駅館川開拓鳥越地区舗装

昭和53年（日中平和友好条約調印 / 新東京国際空港（成田空港）開港 / 県下記録的猛暑）

- 1月 宇佐市常徳線舗装
- 2月 宇佐市谷山線舗装
- 9月 宇佐市山本四日市線舗装
- 10月 駅館川総合開発大幹線南北線舗装
- 11月 国鉄柳ヶ浦工区事務所新築

主な工事（年月は着工時期）

昭和54年（第2次オイルショック /

平松守彦知事、一村一品運動提唱）

- 3月 黒川アパート新築外
- 6月 宇佐海岸高潮対策工事
駅館川総合開発1号線渡線橋機台工事
- 7月 和気地区園場整備
- 8月 県営小峰団地住宅棟新築
- 9月 宇佐地区国道の歩道設置
宇佐高校管理棟改築
- 12月 九州農政局山の口管理道路舗装

昭和55年（衆参同日選挙実施 / 県下で冷夏・長雨）

- 1月 日豊線今津天津間森田地区踏盤新設
- 5月 向野川災害復旧工事
- 8月 県営小峰団地住宅棟新築
- 11月 伊藤小児科医院新築
- 12月 宇佐地区急傾斜地崩壊対策工事

昭和56年（県下で全国豊漁祭開催 / 第1回さいすマラソン）

- 1月 駅館川堤防和開導水路工事
- 3月 山田産婦人科医院新築
- 6月 県営小峰団地住宅棟新築
- 9月 宇佐市日足南無会館舗装
向野川側道橋架設

昭和57年（ホテル・ニュージャパン火災33人死亡 / 亀五千円札事件）

- 2月 豊前海地区大規模増殖場開発
- 3月 大分銀行宇佐強身寮新築
- 6月 寄瀬川小規模河川改修
- 7月 宇佐地区国道舗装修繕
- 9月 宇佐市農村モデル事業下森山地区舗装

昭和58年（日本海中部地震 / 大韓航空機撃墜事件）

- 1月 公営渚住宅団地住宅建築
- 2月 寄瀬川小規模河川改修
- 3月 駅館川総合開発南北1・2号線舗装
- 7月 向野地区国道舗装修繕
宇佐市放生会線舗装



昭和27年には小松ブルドーザー1号機を導入。



ベルトコンベアによる土砂の運搬作業。（昭和30年頃）

成長の要因

「受け継がれる和」の精神

末宗組の成長の要因は、経済成長だけではない。アスファルトプラントに代表されるように、新しい技術や土木・建設機械を積極的に導入する先見性と決断力があった。

昭和26年頃には、それまで人力に頼っていた土砂の運搬にベルトコンベアが使われるようになり、同じ頃、ブルドーザーも導入された。さらにワイヤーを使った機械式のパワーショベルになり、昭和53年頃に油圧式のバックホーが登場する。また日出町豊岡の三川橋の工事（昭和20年代）で、恐らく県内で最初と思われるシートパイル工法を採用し、難工事をやり遂げたこともあった。

もう一つの要因は、製材所や鉄工所・整備工場を自社で持っていたことである。

戦時中、あらゆる物資にかけられていた統制が完全に解かれたのは昭和25年の7月。しかし、撤廃になつて以降も業者は物資の入手に苦労したという。創業時から製材業を兼ねていた末宗組は材料のストックをかなり持っており、さらに伐採から製材までをすべて自社内で行うことができた。立木の時から木を見切る技術者も目立ての職人もいた。

また建築資材の製作や、土木・建築機械や重機の整備、修理なども自社内の鉄工所・整備工場で行うことができた。

つまり、すべての作業を社内ですべて完結できたため

に、多少利益率の低い仕事でも受けることができたのである。

さらに「人」。四天王をはじめ技術者たちが、次の後継者を育てていったこと。現場監督が変わっても、現場で働く作業員たちは引き継いでいたことなど、働く人々と会社との深い繋がりがあった。

明治人気質で、厳しかったけれど「面見がよく、親分肌だった十郎。真面目で大人しく、仕事には厳しかったが働く人には優しくした庄市。共通するのは、仕事への真摯な取り組みと、従業員や作業員への信頼だった。そのため、庄太郎が社長になって定年制ができるまで、現場では70歳を過ぎても現役の人がたくさんいた。逆に作業員のほうが「俺たちは

主な工事（年月は着工時期）

昭和 59 年（東北国東テクノポリス指定 / グリコ森永事件発生）

- 6 月 浜永水産建築
- 9 月 駅館川総合開発東西線高森工区
南宇佐地区国道舗装修繕
- 10 月 九州電工宇佐営業所新築
- 12 月 長浦歯科医院新築

昭和 60 年（男女雇用機会均等法成立 /
日光ジャンボ機墜落 / 大分地域 INS スタート）

- 6 月 宇佐市放生会線舗装新設
- 7 月 宇佐高校グランド造成
- 9 月 豊川小学校屋内運動場建設
駅館川総合開発東西線畑田工区
- 10 月 安心院高校農場管理棟増築

昭和 61 年（チェルノブイリ原発事故 / パブル景気始まる）

- 4 月 日本火災海上別府保養所新築
- 8 月 駅館川総合開発東西線と気工区
封戸小学校屋内運動場新築
- 11 月 宇佐市東新町都市下水路新設

昭和 62 年（国鉄分割、JR グループ発足 /
ニューヨーク株式会社大暴落 / 大分で日米合同訓練）

- 2 月 長洲漁村センター設置建築
- 8 月 封戸小学校校舎増改築
- 9 月 四日市地区国道舗装修繕
- 12 月 金谷地区国道舗装修繕

昭和 63 年（青函トンネル開通 / 瀬戸大橋開通 / リクルート）

- 1 月 医療法人起愛会社宅新築
- 8 月 三和酒類 清酒工場新築
- 9 月 天津小学校校舎・管理棟建築
- 宇佐高校体育館新築
- 国道 387 号線畑田所地区改良
- 11 月 長洲高校グランド造成

平成元年（昭和天皇崩御、「平成」に改正 / 消費税スタート /
天安門事件 / ベルリンの壁崩壊 / 県下に初の自動車道）

- 6 月 高田高校管理・教室棟大規模改造
- 8 月 長洲小学校校舎改築
- 9 月 植野地区国道舗装修繕
- 11 月 下拝田工業団地造成



「末宗十郎翁之像」除幕式。

の現場主義もこのときから始まったものだ。そうして庄太郎が仕事に慣れ始めた47年11月、創業者である十郎が亡くなる。84歳だった。

十郎は昭和22年、戦後初の民主主義的選挙で県議に初当選したのち4期務め、その間、各種委員会の委員長や副議長を歴任。35年には藍綬褒章、勲五等双光旭日章を授与された。「末宗十郎翁之像」は、そうした業績と長年の地域への貢献が称えられて建てられたものだ。その際の建設委員長は宇佐町議会議長、建設委員に宇佐町議、教育委員や区長など19名、協賛者に大分県知事、宇佐神宮宮司、宇佐の県議、そして賛同者として和気部落民全員となっている。



少年時代の庄太郎と祖父・十郎。
（昭和26年頃、宇佐神宮にて）

庄太郎が大学を卒業し、帰ってきて末宗組に入ったのは昭和44年。子ども頃から父と一緒に工事現場に行くのが遊びのようなもので、小・中学校の頃は母の作ってくれた弁当を持って、ジープに乗って現場に行くのが休日の日課になっていた。この頃から現場が好きだった。

高校3年のときに家業を継ぐ決心をし、日本大学生産工学部建築科に進学。現場写真を自分で現像していた父の影響で、写真部に在籍した。

末宗組での最初の仕事は、入社3か月目、院内中学校の新築工事での施工図だった。その後は「営業2割、現場8割」で、毎日のように現場を回った。祖父も父もそうだったように、庄太郎

いつまで働いたらいいんじゃないか」と心配するほどで、その言葉の中には「いつまでもおつて邪魔にならんじゃろうか」という会社への配慮が込められている。この「和」の精神こそが末宗組の核となるバックボーンであり、人を大事にする社風は、庄太郎の代になった現在も受け継がれている。

後継者の入社と創業者の死

現場主義も父ゆずり

想定外の連続、上矢部地区圃場整備

10kgと引き換えに得た経験)

十郎が亡くなると、末宗組はすぐに翌48年2月に塚本威彦を取締役に据え、体制を整えた。塚本は末宗家の親類筋にあたり、昭和21年の入社以来、ずっと庄市社長と行動を共にしてきた信頼のおける人物で、38年から監査役に就いていた。そして3月、末宗組の将来を担う一人、庄市の二男・為十が大学を卒業して帰ってくる。

為十は庄太郎より4歳下の昭和25年生まれ。中学生の頃から家業を継ぐ意志を持ち、大戦時代は休みのたびに帰郷し、現場に通っていた。4年の冬休みには、「卒業したら帰るから、土木工事を受注しておいてくれ」というほどヤル気満々の若者だった。

48年と言えば第一次オイルショックが始まった年で、それから景気の低迷が続く、公共工事の減少や物資の価格高騰など、建設業界にとってもきわめて厳しい時期だった。さらに立ち直りかけた矢先の54年に第二次オイルショックが水を差し、再び景気が減退する。その中で末宗組は、前述したとおりアスファルトプラント2号機を導入し、舗装工事を次々と請け負っていた。また、この頃から本格的に圃場整備にも取り組んでいる。

為十が入社して半年後に、初めて現場監督として任されたのも圃場整備だったが、庄太郎と為十兄弟二人にとって思い出深いのが昭和51年8月に着工した宇佐市上矢部地区の圃場整備だ。

寄澤川上流の谷間にある上矢部地区の水田は、山腹に切り開かれた棚田になっていた。そのため、平地の整備では考えられないようなことが次々と起こった。高低差がある上に赤土で、そのうえ岩盤まで現れたた



苦労の連続だった上矢部地区の圃場整備。

め、圃場整備に発破を使うという、普通では考えられない処置をした。さらに、そういう山肌にあるため地下水が湧き出た。その処理に追われているうちに、今度は台風による大雨で、上からも水が流れてくる。

もともと他業者が尻込みしたもので苦戦は予想していたが、それにしても予想以上、今流で言うところの「想定外」のことが多すぎた。努力と工夫を重ねた末に、なんとか完成にこぎつけたが、「土方を継ぐために生まれきたような男」と称された為十の体重が10kgも落ちていた。金額的には決してその困難さに見合うほどのものではなかったが、仕事の進め方や人員の管理の仕方など、二人は数字には表れない大きなものを、この工事から学んだ。

主な工事（年月は着工時期）

平成2年〔湾岸戦争始まる / 豊肥地区大水害〕

- 3月 宇佐市庁舎別館新築
- 5月 高田高校大規模改修
- 8月 和賀地区国道舗装修繕
- 9月 田染中学校屋内体育館新築

平成3年〔大型台風19号来襲 / 大分空港道路開通〕

- 6月 宇佐高校普通教室棟大規模改修
- 8月 三和酒類 櫻樽貯蔵庫棟建築
- 9月 大分10号 安心院地区路床改良
駅館川総合開発番下ダム道路
- 10月 県土地改良宇佐事務所新築
岩保～久兵衛新田海岸局部改良 (H20年まで各年)

平成4年〔バブル崩壊、景気後退 /

PKO協力法案可決 / 学校週休2日制始まる〕

- 6月 宇佐市営常徳汚水幹線
- 9月 西木舗装工事外1件
小規模河川改修（寄澤川・宇佐市南鶴田）
- 10月 宇佐高校テニスコート整備
- 12月 出光2号 集落道整備

平成5年〔冷夏・長雨でコメ不足、緊急輸入決定 /

北海道南西沖地震 / 台風13号襲来〕

- 1月 寄澤川改修
- 2月 園木歯科診療所及び貸事務所新築
- 5月 宇佐市総合運動場道改良舗装
杵築高校普通教室棟改造外
- 6月 宇佐産業科学高校電子機械科実習棟
大分10号 山本地区改良
- 7月 小規模河川改修（寄澤川・宇佐市橋津）
- 8月 上坪田2号集落道整備
- 9月 宮迫1号集落道整備
岩崎舗装2期
- 12月 小規模河川改修（寄澤川・宇佐市北鶴田）
下坪田第2工業団地進入路新設

4兄弟の時代へ

父が逝き、昭和が終わった



父・庄市亡きあとは、あらゆることを兄弟4人で乗り越えてきた。

景気低迷の中にあつて、年間完工高を順調に伸ばしてきた末宗組だったが、55年度から5年連続して行われた国の公共事業抑制政策による伸び率0%の影響が57年に出始め、61年まで一時下降を続けた。回復し再び右肩上がりになるのはバブル景気（61年）の恩恵が地方へも及んできた62年になつてからである。

しかし、やっと景気の回復を見て、さあこれからという63年5月に庄市が68歳という若さで他界。半年後の1月に昭和天皇が崩御し、時代が平成へと移る直前である。まさか昭和が終わると予想していたわけではないだろうが、まるで末宗組の昭和に区切りをつけるような庄市の死だった。

庄太郎は父を送るとすぐに代表取締役役に就任。あわせて十が専務取締役役に、末の弟・秀雄が常務取締役役に就任した。

秀雄は兄たちとは違い外で働くつもりで早稲田大学法学部に進学。体調の

おもわしくなかった庄市に呼び戻され、52年に卒業と同時に入社し、対外折衝や建築士との打ち合わせ、業務の段取りをつけるなど、営業畑で飛び回っていた。

さらに平成元年1月、兄弟の叔父で取締役をしていた末宗陸男が健康上の理由などから辞任。かわって母の寿津子が3月に取締役に就任した。続いて2年には、10年以上大手企業・雪印乳業で働いていた三男・寿市も、兄たちに乞われ帰ってきて入社。長年の実務経験を生かし、総務を担当する。これで兄弟4人に、塚本が支えるという新体制ができあがった。

主な工事（年月は着工時期）

平成6年（県出身者初の村山富市内閣総理大臣誕生 / 関西国際空港開港）

- 1月 神子山職員宿舎新築
- 3月 三和酒類 焼酎柏加工場新築
小規模河川改修（奇瀬川・宇佐市惣木）
河川災害関連
- 5月 玖珠農業高校特別教室大規模改造
大分10号 山本地区法面保護
- 7月 ふるさと農道宇佐東部高森舗装
宇佐中学校校舎改築
- 9月 ふるさと農道宇佐東部惣木22区路床
- 10月 舗装新設（宇佐市別府）
- 11月 別府大学宇佐教育研修センター新築

平成7年（阪神・淡路大震災 / 東京地下鉄サリン事件発生）

- 2月 宇佐神宮安全柵工事
- 3月 宇佐簡保総合レクセンター外構他
小規模河川改修（奇瀬川・宇佐市南鶴田）
- 4月 大分10号 山本地区工事用道路補修外
- 5月 下拜田第22工業団地造成
- 6月 ふるさと農道宇佐東部東大堀舗装
長洲郵便局庁舎窓口模様替その他
- 9月 宇佐神宮参道外構
ふるさと農道宇佐東部惣木路床
岩崎舗装工事
円座中津線舗装新設（宇佐市上麻生）
- 11月 宇佐高校百周年記念館新築
- 12月 大分10号 宇佐地区保全工事

主な工事（年月は着工時期）

平成 8 年〔九州横断自動車道全線開通 / 住専処理法成立〕

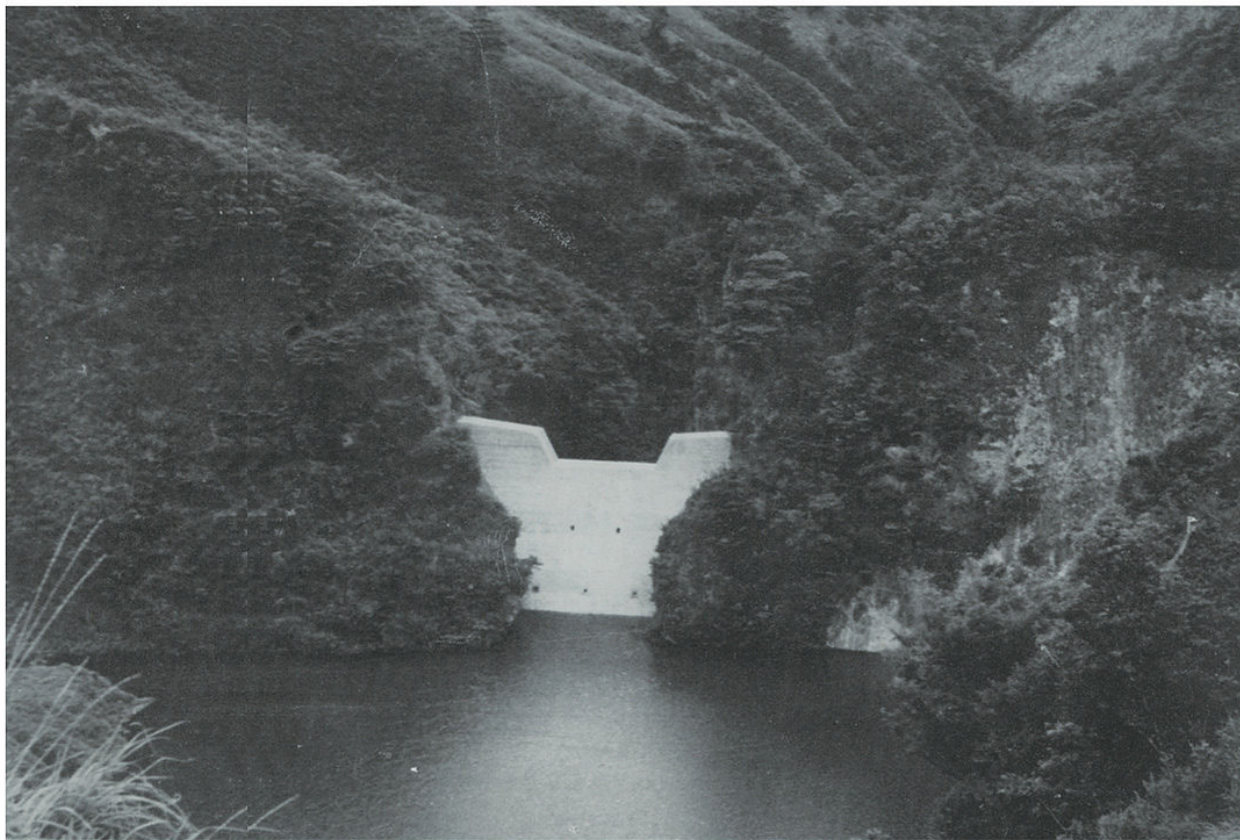
- 3 月 河川改修（宇佐市青森）
小規模河川改修（寄瀬川・宇佐市橋津）
- 4 月 ふるさと農道宇佐東部廻木路肩工事
三和酒類備置室新築
- 5 月 宇佐病院本館新築
- 7 月 長洲中学校校舎解体撤去
- 8 月 長洲中学校校舎改築
- 9 月 県職業能力開発短期大学校（仮称）新築
ふるさと農道宇佐東部廻木 22 区舗装及び路床
柳ヶ浦高校グラウンド造成
- 12 月 扇塚住宅新築
舗装新設安心院町寒水

平成 9 年〔機器移橋法成立 / 株式会社暴落 / 消費税 5%〕

- 3 月 安心院小学校校舎改築
- 4 月 小規模河川改修（寄瀬川・宇佐市橋津）
- 7 月 ハーク半島園路工事（農業文化公園）
- 8 月 ふるさと農道宇佐東部西大堀橋梁下部
- 10 月 ふるさと農道宇佐東部舗装 22 区・52 区
- 12 月 舗装補修（宇佐市高森）

平成 10 年〔金融再生関連法成立〕

- 1 月 柳ヶ浦高校グラウンド造成
- 5 月 ふるさと農道宇佐東部 4 号橋下部 22 区 1 期
- 6 月 舗装道新設（宇佐市下高）
杵築高校管理棟大規模改造（内部）
河川災害復旧助成
- ふるさと農道宇佐東部舗装 52 区
- 10 月 高家保育園新設
- ふるさと農道宇佐東部 4 号橋下部 22 区 2 期
- 11 月 ふるさと農道宇佐東部廻木舗装



昭和 28 年に着工した戦川砂防ダムは、昭和 33 年に完成した。高さ 33 メートルの重力式ダムは、砂防では当時、全国でも数少ないものだった。